

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	インテリア設計 II	担当教員	清水隆宏、平野勝雅（非常勤）			
学年学科	4年 建築学科	前期	必修	2単位(学修)		
学習・教育目標	(B-2) 7%, (D-3 創生系) 60%, E33%		JABEE 基準 1 (1) : (c) (d)			
授業の目標と期待される効果： 本授業では、インテリア系科目の集大成として魅力的な空間演出のためのインテリアを構想し、手作業を通じて、ものを創り上げる実感を大切にしながら課題に取り組むことで、インテリアに対する総合的な理解を深める。単なる「家具」や単なる「室内装飾」ではなく、それらが存在することでその空間を変化させることのできる作品を創造する。		成績評価の方法： 第1課題は、創造した建築空間におけるインテリアを表現した提出図面により評価する（100点）。第2課題は、プレゼンテーションボード・室内パース・模型などの提出物、計100点。これらを合計した計200点の得点率により評価する。ただし、一つでも未提出の課題がある場合は、不合格とする。さらに課題提出は時間厳守とし、期限内に遅れた場合は減点とする。 また、授業に対する姿勢も考慮し、授業の進行を妨げる行為・消極的な行為に対しては、得点率の1～10%を減じた値で評価する。具体的には、出席簿に記載した注意の回数と減点（%）を対応させる。 なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。				
学習・教育目標 ①効果的な空間の演出について理解する ②インテリアと空間、両方のイメージを正しく把握した着想をする ③自らの意図を作品にする能力 ④設計意図を説明する能力		達成度評価の基準： 下記①～④について、6割以上達成しているかを評価の基準とする。これらの成績評価の重みは、均等である。 ①効果的な空間演出ができるか ②インテリアと空間の両方を正しく把握できるか ③デジタルツールを用いた美しい表現ができるか ④的確に意図を伝えるプレゼンテーションが行なえるか				
授業の進め方とアドバイス： 積極的に建築・デザインの雑誌などに目を通して、感性を養うと同時に、表現技術などを参考とすること。そのうえで、CAD室などを活用して積極的に情報機器を利用し、技能習得に努めること。						
教科書および参考書： 教科書：日本建築学会編 コンパクト建築資料集成（丸善） 参考書：各種建築雑誌（新建築・商店建築・GAなど）、環境社会検定試験（eco検定）公式テキスト						
授業の概要と予定：		教室外学修		ALのレベル		
第1回：【第1課題】空間を演出するインテリア表現作品の作成 課題提示、趣旨説明（担当：清水）		授業進行に対応した内容（室内空間のイメージを表現するパース、スタディ模型の作成など）を順に、各自の作業スケジュールに沿って行う。 各授業の授業進行に対応した内容（空間の設定、資料の収集）を順に実施して考えをまとめる。 各種図面（平面図、立面図、断面図、スタディ模型など）のエスキースを適切なスケールで作成する。 適宜各自の作業スケジュールに沿って課題の作成を行う。		C		
第2回：空間の設定、資料の収集、エスキースチェック				C		
第3回：インテリアプレゼンテーションボード及びパースの作成				C		
第4回：講評会				—		
第5回：【第2課題】室内空間の設計 課題提示、資料説明（担当：平野）				C		
第6回：空間の設定、資料の収集				C		
第7回：エスキースチェック1（コンセプト）				C		
第8回：エスキースチェック2（コンセプト）				C		
第9回：エスキースチェック3（アイデアスケッチ、スタディ模型）				C		
第10回：エスキースチェック4（アイデアスケッチ、スタディ模型）				C		
第11回：エスキースチェック5（平・立・断面図など）				C		
第12回：エスキースチェック6（平・立・断面図など）				C		
第13回：インテリアプレゼンテーションボード及びパースの作成1				C		
第14回：インテリアプレゼンテーションボード及びパースの作成2				C		
第15回：講評会				—		
				A		

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	効果的な空間演出ができる（8割以上）。	効果的な空間演出がほぼ（6割以上）できる。	効果的な空間演出ができない。
②	インテリアと空間の両方を正しく把握できる（8割以上）。	インテリアと空間の両方をほぼ正しく把握（6割以上）できる。	インテリアと空間の両方を正しく把握できない。
③	デジタルツールを用いた美しい表現ができる（8割以上）。	デジタルツールを用いた美しい表現がほぼ（6割以上）できる。	デジタルツールを用いた美しい表現ができない。
④	的確に意図を伝えるプレゼンテーションが行なえる（8割以上）。	的確に意図を伝えるプレゼンテーションがほぼ（6割以上）できる。	的確に意図を伝えるプレゼンテーションができない。